

科目名	居住地計画論	英語科目名	Habitation Planning
開講年度・学期	平成26年度・前期	対象学科・専攻・学年	専攻科・建築学コース・2年
授業形態	講義	必修 or 選択	選択
単位数	2単位	単位種類	学修単位(15+30)h
担当教員	尾立弘史	居室(もしくは所属)	建築棟 2階デザインスタジオ内(A-208-4)
電話	0285-20-2835	E-mail	oryu@oyama-ct.ac.jp
授業の到達目標	授業達成目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育到達目標(JABEE)	JABEE 基準
○居住地のコミュニティと生活圏域構成の理解 ○居住地としての農村の特質と可能性の理解 ○農村の持つ空間的ストックの活用・整備方法 ○自然生態系と生活、気候風土と建築 ○農村社会と住民参加、グリーンツーリズムへの対応 1. 上記授業目的に対して各自の意見が表現できること。 2. 各自の人が住むべき場所とスタイルについてイメージが表現できること。	③④	AO	d-1 g
	③④	A	d-1 g
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法			
1. 2とも関連する問題につき提出されたレポートと、授業中のディスカッションを総合的に評価し60%で達成とする。			
評価方法			
提出するレポート(80%)授業中の質疑応答(20%)で評価する。			
授業内容	授業内容に対する自学自習項目		自学自習時間
1.コミュニティの単位	日本のコミュニティ単位の事例収集		4
2.生活圏域1	狭域の事例収集		4
3.生活圏域2	広域の事例収集		4
4.都市の規模1	日本の規模論		4
5.都市の規模2	欧米の規模論		4
6.農村の居住空間の特性	都市と農村の空間比較		4
7.ストックの活用・整備方法	ストックの事例収集		4
8.自然環境・地形の活かし方1	日本の事例収集(小景観)		4
9. 自然環境・地形の活かし方2	日本の事例収集(大景観)		4
10. 農村社会と住民参加1	住民参加事例の収集		4
11. 農村社会と住民参加2	住民参加事例の収集		4
12. グリーンツーリズムへの対応1、	日本の事例		4
13. グリーンツーリズムへの対応2	ヨーロッパの事例		4
14. 地域施設の整備手法1	都市部の施設体系		4
15. 地域施設の整備手法2	農村部の施設体系		4
最終レポート提出			
自学自習時間合計			60
キーワード	コミュニティ、生活圏、都市居住、農村居住		
教科書	特になし		
参考書			
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	地域施設計画論、建築計画Ⅰ・Ⅱ、卒業研究		
現学年の関連科目	特別研究		
次年度以降の関連科目	なし		
連絡事項			
隔年開講であるので平成26年度は開講しない。 参考資料は独自のものを使用するので授業に出席しないと理解ができない場合が多い			
シラバス作成年月日	平成26年2月28日		